

知事との県民対話集会（小諸市）概要

- ・開催日時 令和4年11月17日（木） 午後4時30分から午後6時まで
 - ・会場 小諸市交流センター ステラホール
 - ・参加者 県民76名、小泉小諸市長、阿部知事、高橋佐久地域振興局長
 - ・テーマ ウェルネスシティ信州小諸 ～地域公共交通を考える～
- ・主な発言（要旨）

【参加者】

- ・デュアル実習で小諸駅改札業務を行っているが、Suica等交通系ICカードが使えないことで、苦情や正しい金額を徴収できないなどの弊害がある。地域連携ICカードの普及を。
- ・パークアンドライドで市民が駅前の駐車場を利用し、電車で長野や上田、佐久等に行けるようにすることも重要。

【知事】

- ・交通系ICカードは、バス会社には県が補助をして導入する方向が決まっている。JR東日本とJR東海には交通系ICカードを使える駅を増やしてとお願いしている。全額補助ではないので経営判断だが、しなの鉄道など地域鉄道にも導入してほしいと思っている。
- ・パークアンドライドは重要だと考える。市民にも普段から鉄道を利用してもらいたい。行政もパークアンドライドを進めていく。

【参加者】

- ・音楽科がある唯一の高校であるため、遠方からの通学者もいるが、部活後の小海線やしなの鉄道の待ち時間が長く、さらに駅までの帰宅バスも減らされて困っている。電車もバスも増便をお願いしたい。

【知事】

- ・特別支援学校ではバスで送迎している。それを参考に学校側で考えることも必要ではないか。

【参加者】

- ・デマンドタクシー「こもろ愛のりくん」を使って、運動教室、介護、病院に行っている。入口まで連れて行ってくれるのでありがたい。ユニクロ、ダイソー、しまむらなどの商業施設や小諸市外の病院へも行ってくれるようになるともっといい。

【知事】

- ・市町村をまたぐと一つの自治体の財源で賄うのは難しい。県で考えていきたい。今、地域ごとに考える場を作っている。

【参加者】

- ・コロナによる鉄道利用客減、電気料金の高騰で経営悪化している。設備修繕もままならず困っている。
- ・少子高齢化に加えて理系職の人手不足で困っている。

【知事】

- ・事業者の収入源の減少は理解。しなの鉄道は3セク鉄道なので、市町村と連携してやっていきたい。公共交通に対する税金の投入が極めて少ないので、圧倒的に増やしたい。足りないなら増税することについて、賛成や反対の意見も聞きたい。
- ・知事選の公約の一つが「交通政策局」を作ること。交通政策を積極的に進めていく。
- ・産業人材不足には私も危機感。最重要課題に位置付ける。

【参加者】

- ・コロナによるバス利用客減、軽油の高騰で赤字、もう内部留保もほとんどない。
- ・客からの要望もあり、交通系ICカードの利用の必要性を感じる。利便性の向上、コロナ予防のためにもICカードが導入できるといい。

【知事】

- ・バスについては、協議会で全県でICカードの導入の方向で話がついた。

【参加者】

- ・「こもろ愛のりくん」を運営しており、時間延長の要望があるが、ドライバーの人手不足、高齢化で難しい。
- ・規制があり、直接当社で運転手を雇えないため、タクシー会社に委託している。当社で雇えたら、女性運転手も雇い、サービスの幅が広がる。

【知事】

- ・ウーバーのように、タクシー事業者ではない人が運送する福祉輸送など、もっと柔軟な仕組みができないといけない。
- ・国が全国一律に作る規制に課題感。地域の実情に合わせた規制緩和、地方分権を進めていきたい。

【参加者】

- ・公務員の県庁への出張も、公用車ではなく公共交通機関を利用するよう指導すべきではないか。

【知事】

- ・ご指摘のとおり。公共交通機関に合わせて会議時間を設定するなど、工夫させたい。

【参加者】

- ・公共交通機関のデジタル化には民間の方もいれて考えてもらいたい。

【知事】

- ・事業者と一緒に考えていきたい。